メディカル ぽっぽ

よりよい医療の始発駅

volume 36
2026.4

「診療科 UPDATE」
放射線科・放射線治療科
ドクターインタビュー
放射線科　部長 加藤 武晴
放射線治療科　部長 道本 幸一

リハビリコラム
転倒防止について

栄養室コラム
アルコールと健康

おくすり基礎講座
災害時の薬の備え

ぽっぽニュース
お知らせ
・情報コーナー
ご報告
・看護補助者が永年勤続者表彰を受賞

大阪鉄道病院
Osaka General Hospital of West Japan Railway Company

ご報告 当院の看護補助者（ヘルパー）が大阪府病院協会より永年勤続者表彰を受けました！

このたび、当院の看護補助者（ヘルパー）が、大阪府病院協会の「第50回病院職員永年勤続者表彰」を受賞しました。ここに受賞者の喜びの声をお届けします。

医療職勤続 20 年ということで表彰いただき、心から感謝申し上げます。看護補助者としての役割に重きを置き、力強く病と闘っておられる患者さんお一人お一人の力になれたらと、多くのスタッフや仲間とともに日々歩んできた積み重ねの結果と思っております。これからも自分自身の健康にも気をつけながら、チーム医療の一員として努力してまいります。

（篠原　薫）

ただいま、当院では看護補助者(ヘルパー)を募集しています！

先輩スタッフが一つ一つ丁寧にお教えしますので、未経験の方も安心してスタートできます。また、長く働き続けられる職場環境づくりを大切にしています。「人の役に立つ仕事がしたい」「医療の現場で働いてみたい」そんな思いをお持ちの方、ぜひ私たちと一緒に働きませんか。

詳細は、ホームページに掲載しています。皆さまのご応募を心よりお待ちしております。

募集要項はこちらから⟶

“私達は人間性を尊重し、謙虚で誠実な医療を提供します”

【基本方針】
安全で良質な医療を実践し、信頼される病院を目指します。
多機能型急性期病院としてチーム医療を推進し、継続的な医療を提供します。
地域に根ざした病院としての役割を認識し、住民の皆さんの健康増進に努めます。
地域医療機関との連携を重視し、きめ細かな医療に努めます。
専門性を追求し、医療レベルの向上と人材の育成に努めます。

大阪鉄道病院
Osaka General Hospital of West Japan Railway Company
〒545-0053 大阪市阿倍野区松崎町 1 丁目 2-22
TEL.06-6628-2221（代表）FAX.06-6628-2287（代表）
地域医療連携室 FAX.06-6628-4707
ホームページ https://www.jrosakahosp.jp

受付時間／午前８時30分～午前11時00分　診療開始／午前９時00分～
休診日／土日祝・年末年始（12月30日～1月3日）

202604

放射線科・放射線治療科

最新鋭の機器とすぐれたチームワークで質の高い診断と治療を提供。

画像診断を行う「放射線科」と、放射線を用いてがん治療を行う「放射線治療科」で構成される放射線部門。高度な専門スキルを有するドクターと放射線技師、専任の看護師らのチーム体制による息の合った連携で、安心安全な医療を提供しています。

放射線科
ドクターインタビュー

部 長 加藤 武晴
（かとう たけはる）

専門分野／ IVR、画像診断
資格／日本医学放射線学会認定放射線診断専門医、日本 IVR 学会認定 IVR 専門医、日本核医学会 PET 核医学認定医、検診マンモグラフィ読影認定医、日本医学放射線学会研修指導者

治療の「入り口」を担う迅速・正確な画像診断を。

──それだけの情報を速く正確に読影されるコツはあるのでしょうか

どんな症例でも読影のもれがないように、臓器ごとにチェックする順番を決めて、自分なりのルーチンを決めて読影を行っています。そうすることでちょっとした画像の違和感にも気づきやすくなるので、確実でミスのない画像診断につながると思います。あとはもう、経験ですね。もちろん画像診断の世界は日進月歩ですので常に知識のアップデートは必要です。

──毎日の仕事は、どのように進められていますか

前述のように、すでに撮像した画像を診断する業務のほか、翌日に検査予定の内容を事前にチェックする作業（プレチェックと呼んでいます）も行っています。依頼元の診療科の先生の依頼内容（検査目的）を一例ずつ事前に確認し、どのような方法や角度で撮像を行うのか、撮像範囲をどうするのかなど、現場の技師が困らないように事前に指示出しを行っています。また、看護師からもアレルギーの情報や腎機能のデータなどを聞いてチェックしておくことも欠かせません。チームの綿密なコミュニケーションと情報共有があってこそ、安全な撮像とスムーズな画像診断につながります。

──放射線科医のお仕事を教えてください

主に画像診断業務を行っています。すなわち各種画像検査（CT・MRI・RI など）で撮像された画像を専用のモニター画面で確認し、異常の有無や、異常があればどんな疾患の可能性が考えられるのか評価（診断）するのが仕事です。「読影」と呼ばれる業務です。当院放射線科では院内各科および近隣の医療機関からの検査依頼に対応しています。また、カテーテル（治療用の細い管）を用いて血管内から治療を行うIVR(画像下治療) にも取り組んでいます。

──特に大変なのはどんなことでしょう

あらゆる診療科からの要望に応え、膨大な件数の画像診断を行わねばならないことです。現在、当科では放射線診断専門医３名で業務を行っていますが、CT で 1,000 件／月以上、MRI 400 件／月程度と、数多くの検査に対応しています。加えて、近年では撮影装置の進化により画像がさらに鮮明になった分、より細かな部分までチェックする必要があります。

画像診断センタースタッフとともに

──やりがいを感じるのはどんなときですか

現代の医療では、どんな診療科であれ一切画像を撮らずに手術することはありません。その意味で、さまざまな臓器や疾患の治療に関わる診療科であることは、画像診断医としてとてもやりがいを感じています。画像診断は、患者さんの症状や血液データなどの「状況証拠」をもとに、撮像された画像の中から「物的証拠」を探し出す作業です。とても地味な作業ではありますが、治療方針に影響することも少なくありません。画像から症状の原因となる疾患が見つかり、治療につながった時は充実感を覚えます。普段は患者さんの前に出ることも少なく、決して目立つ存在ではありませんが、日常診療を陰で支える役割を果たしていると自負しています。

──まさに治療の入口を担う画像診断。日々の業務において心がけていることはありますか

画像検査はいわば「影絵」をみているようなもので、画像検査を行えば身体の異常や疾患のすべてが確実にわかるわけではありません。画像検査でいえることは不確実な部分も多く、画像診断の際には過信や思い込みは厳禁です。画像診断医としてどの程度の確信度で診断を行ったかを依頼医に伝えることも重要かと思われます。画像検査を行っても診断に至らず、わからないことも多々あります。画像診断のプロとしての自覚は持ちつつ、気負わず謙虚に取り組む姿勢も大切だと考えます。

──大阪鉄道病院放射線科の魅力はどんな点にあると思われますか

放射線科には、放射線科の医師以外にも診療放射線技師や看護師、医療事務員など多くの職員が働いています。チームとして対応することも多く、相互の協力や意思疎通は必要不可欠です。フロアには放射線診断専門医のための「読影室」がありますが、常勤医師のうち２名は必ず検査室に近い読影端末に常駐し、指示出しや報告受け、相談など、スタッフと円滑にコミュニケーションが取れるようにしています。この風通しのよい職場環境が当院放射線科の仕事の質を高めているといえます。これからも、撮影を依頼された先生が一番知りたい情報を引き出すべく、チームが総力を挙げて診療に役立つ画像検査を積み重ねていきたいと思います。

MRI(1.5T Ingenia ／フィリップ社)

機器としての先進の機能性はもちろん、患者さんが横になるスペースが広く圧迫感が少ない、撮像中に映像や音楽の視聴が可能、照明への配慮など、リラックスして検査を受けていただける工夫が搭載されています。このほか最新型の 320 列マルチディテクターＣＴ、ラジオアイソトープを用いた核医学検査やマンモグラフィ検査など、必要に応じてさまざまな画像検査をしています。IVR（画像下治療）においても、CT 搭載のハイブリッド型装置を備えています。

STAFF

豊辻 智則（とよつじ とものり） 医長
専門分野／画像診断
資格／日本医学放射線学会認定放射線診断専門医・放射線科専門医、日本医学放射線学会研修指導者、肺がん CT 検診認定医師、日本核医学会認定核医学専門医、日本核医学会 PET 核医学認定医、検診マンモグラフィ読影認定医、日本医師会認定産業医

三和 大悟（みわ だいご） 医長
専門分野／画像診断
資格／日本医学放射線学会認定放射線診断専門医、日本医学放射線学会研修指導者

放射線科・放射線治療科

放射線治療科
ドクターインタビュー
部長 道本 幸一
（みちもと こういち）

専門分野／放射線治療
資格／日本医学放射線学会認定放射線治療専門医・研修指導者、日本がん治療認定医機構がん治療認定医

安全で心身にやさしい放射線治療を実践

──放射線治療とはどういった治療ですか

手術、薬物療法（抗がん剤、分子標的薬）と並ぶ、がん三大治療法のひとつで、がん細胞を死滅・縮小させることを目的に放射線を照射します。どのように放射線治療を行うかの判断は専門的知識が必要です。最大の特徴は、低侵襲で身体への負担が少ないということです。胸部 X 線撮影などと同様に、放射線があたっても痛みや熱さを感じることはありません。また、がん病巣へのダメージを集中させ、正常組織への影響をできるだけ抑えるよう、線量や照射方法にも工夫して行っています。さらに近年は、放射線機器の発達も著しく、より強い放射線を正確により小さく当てることで、抗腫瘍効果が高く副作用がさらに少ない治療が可能になってきました。

──大阪鉄道病院の放射線治療についてお聞かせ下さい

当院の診療科や登録医さんより放射線治療の依頼や相談があれば、放射線治療専門医である私が患者さんを診察し、患者さんの病状に合った治療法を検討します。その後、治療のためのシミュレーション、治療計画の作成などを経て、放射線治療に入ります。当院では、高エネルギー X 線を発生させる「リニアック」という装置を用い、根治から緩和まで、さまざまな病態に応じて放射線治療を行っています。

＜当院の放射線治療＞

３次元放射線治療

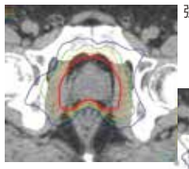
高エネルギーX線放射線治療装置（リニアック）を用い、腫瘍の形に合わせて、多方向から放射線を照射します。さらに放射線治療装置に連動したX線撮影装置や CT 撮影装置を使い位置の“ずれ”を補正することで、体内の病巣に対して極めて正確（ミリ単位）に放射線を照射できます。肺がんのように呼吸で移動する腫瘍の場合は、4次元 CT で腫瘍の移動範囲を評価し、呼吸による“ずれ”を小さくする工夫をしています。

リニアック

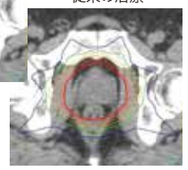
強度変調放射線治療

(IMRT: Intensity Modulated Radiotherapy)

放射線の強さを複雑に変化させ、腫瘍の形状に合わせて照射を行います。周囲の正常組織への放射線を減らして副作用を低減しつつ効果的な照射が可能です。当院においては VMAT(Volumetric Modulated Arc Therapy) と呼ばれる強度変調回転照射で行っており、照射時間は２～３分と短時間です。当院では手術と同等の治療効果があると考えられている前立腺がんの治療を主としています。また肺がんやその他の疾患にも、適応があれば行います。



強度変調放射線治療

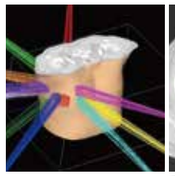


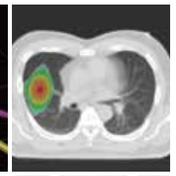
従来の治療

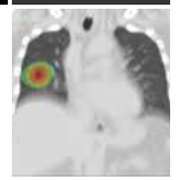
前立腺がんに対する
強度変調放射線治療
（IMRT）

定位放射線治療

小さな腫瘍に対して、多方向から大線量の放射線を集中して当てる治療法。当院では主に肺の腫瘍に行っています。原発性肺がんの場合は、大きさが概ね 3～4cm 以下で、転移がなく肺の末梢に腫瘍が存在する場合に適応となります。治療は１日１回の連日４日間で終了し、外来通院が可能。効果は手術に匹敵すると考えられています。







肺がんに対する
定位放射線治療
（ピンポイント照射）

──特に多いのはどのような治療ですか

当院では、３次元放射線治療を用いた通常照射に加え、主に前立腺がんを対象とした強度変調放射線治療（IMRT）を行っています。多くの症例において照射前に画像誘導を行い、治療寝台（ロボットカウチ）で照射位置をミリ単位で微調整することによって照射精度を上げています。この画像誘導放射線治療により、照射範囲を可能な限り小さくして副作用を低減した治療を目指しています。原発部位別の治療実績としては、乳がん、肺がん、前立腺がんの症例数が多く、次いで消化器系や造血リンパ系など多様な疾患への治療も手がけています。

──治療にあたって心がけていらっしゃることは

安全で精度の高い放射線治療で目的を果たすことは絶対として、患者さんご自身には、安心して治療を受けていただくことが一番です。放射線というとまだまだ「怖いもの」という誤解や不安をお持ちの方も少なくありません。まずは治療について丁寧にご説明するとともに、患者さんの疑問やご相談にも、いつでもしっかりとお答えすることを大切にしています。また治療中、治療後も定期的な診察を行い、副作用の早期発見と重症化の予防に努めています。

──チームで患者さんを見守っていく体制も欠かせませんね

その通りです。当科では専任の技術者と看護師が初診時から同席する体制をとっています。彼ら彼女らが医師と同様に最初の段階から患者さんとの信頼関係を築き、治療はもちろん患者さんやご家族の状況やお気持ちにも配慮し、手厚くフォローしてくれます。スタッフ相互のコミュニケーションも良好です。この雰囲気は、当院放射線治療科だからこその魅力と考えています。今後もスタッフが一丸となり、安全で的確な治療はもちろん、あらゆる意味で患者さんにやさしい治療を実施してまいります。

＜スタッフ紹介＞
「穏やかな道本先生のもとで、最高のチームワークが醸成されています！」

安全確実な治療を支える精度管理の仕事
放射線治療専門放射線技師
山西 英明（やまにし ひであき）

放射線治療医との連携のもと、放射線治療計画を放射線治療専門放射線技師としての視点から検証し最適化を行っています。平たく言えば、PC 上でつくられた治療シミュレーション通りに放射線が照射されるかを検証し、治療の質と安全性に関するチェックを行う役割です。放射線治療はさまざまな機器を複合的に組み合わせて行うので、それぞれの精度のわずかなズレが治療の質に大きく関わることがあります。そのため、日常点検や品質管理を実施し、臨床的に問題となる異常やズレがあった場合には、速やかに機器の調整を行うなど、常に気を引き締めて業務に臨んでいます。責任重大で緊張感のある仕事ですが、道本先生のもと、素晴らしいチームワークで情報共有と互いのフォローが自然にでき、質の高い医療の提供をかなえていると自負しています。

患者さんの心まで癒す放射線治療の提供
看護師（放射線科専任）
原永 恭子（はらなが きょうこ）

症例にもよりますが、外来で通院治療される方が多く、長い時は数週間続けて通っていただくことになります。放射線と聞いて身構える患者さんも多いですが、実際は身体にやさしい治療であることをご理解いただけるよう努めています。またご高齢の患者さんも多いので、お見えになったときはいつも体調に配慮し、心地よく治療を受けていただくことを心がけています。一人一人の患者さんに複数のスタッフが丁寧に関わり、多くの患者さんは治療に来るのを楽しみにされるようになります。治療終了のときに「もっと来たい」とお伝えくださることも。そんなふうに思っていただけるのはとても嬉しく、医師とスタッフが力を合わせてよい環境が提供できていることに誇りを感じます。

リハビリコラム　リハビリテーション室

転倒予防指導士が解説！

転倒予防について学ぼう❺ ～救急搬送の実態（東京都の場合）～

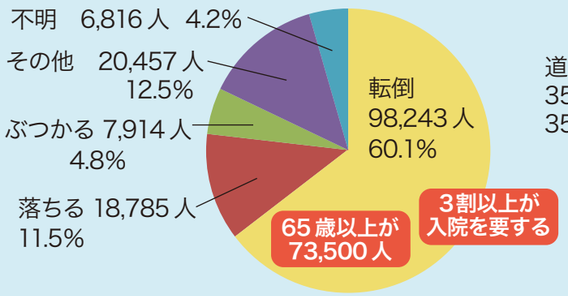
「転倒」に注意するためにも、その要因と傾向について詳しく知っておきましょう。

転倒は実際、どのような事故につながり、どのくらいの人が救急搬送されているのでしょうか。
ひとつのめやすとして、今回は東京都のデータをご紹介します。(2024年東京消防庁　救急搬送データより引用)

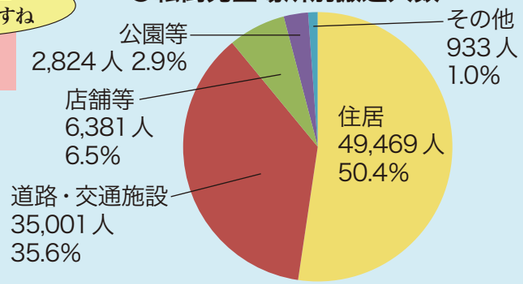
●年間搬送人数は？
全体で　163,360人
うち65歳以上の搬送人数　98,056人

約6割を65歳以上の方が占めてるんですね

●事故種別ごとの搬送人数



●転倒発生場所別搬送人数



●65歳以上の転倒要因上位

1位：段差	3,923人	4位：椅子	1,616人
2位：飲酒	2,519人	5位：自転車	1,002人
3位：階段	2,231人		

こんなにもたくさんの人が救急搬送されていることに驚きますね。他人事ではないと肝に銘じ、特に原因となりそうな物事には注意して慎重に行動しましょう。

栄養室コラム

アルコールと健康

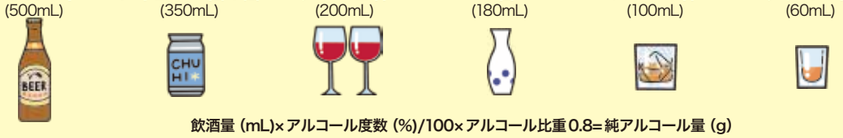
歓送迎会やお花見など、お酒の席が増えがちな季節ですが、飲みすぎには注意が必要です。適量を覚えて、上手にお酒とつきあいましょう。

適切な飲酒量は？

節度のある適切な飲酒量は、1日あたりの純アルコール摂取量が20g程度とされています。
ただし、女性や高齢者、お酒を分解する力が弱い方（飲酒後に顔が赤くなる方）はより少量の飲酒が適当です。

純アルコール量 20gのめやす

ビール (5%)	チューハイ (7%)	ワイン (12%)	日本酒 (15%)	焼酎 (25%)	ウイスキー (40%)
中びん1本 (500mL)	レギュラー缶1缶 (350mL)	グラス2杯 (200mL)	1合 (180mL)	ロック1杯 (100mL)	ダブル1杯 (60mL)



飲酒量 (mL)×アルコール度数 (%)/100×アルコール比重0.8=純アルコール量 (g)

適量のアルコールは死亡率を下げるという報告もあります

お酒を飲むときはこんなことに気をつけて

●バランスのよい食事と一緒に楽しむ
空腹時にアルコールを飲むと、吸収スピードが速くなり酔いやすくなってしまいます。食事とともにゆっくり飲むようにしましょう。アルコールを体内で分解する際に大量消費されるビタミンB1を一緒に摂取するのがおすすめです。

●週2日程度休肝日をつくる
肝臓や胃腸をいたわるために2～3日飲んだら1日休みを設け飲酒が続かないようにしましょう。休肝日はアルコール依存の予防にもなります。

おくすり基礎講座　薬剤部

災害時の薬の備え、できていますか？

地震や台風など、災害はいつ起こるか分かりません。持病のある方にとって飲み慣れた薬の確保は命に関わります。
無事に避難できたが、薬を持っていない、飲んでいる薬がわからない‥‥そんなことがないように、今からできる災害時の備えについてご紹介します。

●いつも飲んでいる薬の予備をとっておく

非常用持ち出し袋に、数日分の薬を入れておくと安心です。薬には湿気や高温に弱いものもあるため、よく確認して保管場所・使用期限に注意するようにしましょう。

●お薬手帳を管理する

薬の名前や用法用量が記載されたお薬手帳は、避難先で薬を受け取る際にも大きな助けとなります。普段から携帯・管理するようにしましょう。スマホアプリやマイナンバーカードでの管理は災害時には使用できない可能性があるので、紙のお薬手帳をおすすめします。

●常備薬や救急用品の準備

災害時の体調不良やケガに備えて、手に取りやすい場所にまとめておくようにしましょう。

災害時の備えは、「明日でもいい」と先延ばしにしがちですが、いざというときの安心のためにも、思い立ったらすぐに取りかかるのがおすすめです。今できる準備を少しずつ始めてみてはいかがでしょう。

ぽっぽニュース

お知らせ　ご存知ですか？充実の情報コーナー

当院では、患者さんや家族さんに当院や地域の状況についての知識を深めていただけるよう、1階地域医療連携室横に「情報コーナー」を開設しています。

当院の広報誌である『メディカルぽっぽ』（当誌）をはじめ、「市民講座のご案内」「当院の患者相談窓口のご紹介」「緩和ケア医療機関マップ」「人生会議のご案内」「大阪がんサポートブック」他、さまざまな情報を掲載した印刷物を揃えております。ぜひお立ち寄りください。